

■児童・生徒の学力の状況

○今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果をみると、国語では全国平均を2.2ポイント上回っており、数学では全国平均を5.0ポイント上回っており、英語では全国平均を8.4ポイント上回っている。よって学力は概ね身に付いていると考えられるが、その中で比較的ポイントの低い項目は、国語では「我が国の言語文化に関する事項」（-7.2）、数学では、「データの活用」（-11.0）、英語では「記述式」（+2.1）である。

○今年度のRSTの結果をみると、中学生の中での偏差値の平均が「係り受け解析」50.68、「照応解決」50.52、「同義文判定」50.38、「推論」50.04、「イメージ同定」51.52、「具体例同定（辞書）」52.51、「具体例同定（理数）」50.98である。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

○読み解く力を育む授業の流れを定着させること。
○「話す・聞く・書く・読む」の4技能を高めるための「志五中スタイル」を定着させること。

志五中スタイル
1 根拠+《接続詞》+自分の考え
2 キーワードを意識

○全国学力・学習状況調査、東京都児童生徒の学力を向上させるための調査、RST、hyper-QUを分析し有効に活用すること。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○課題解決学習や学習成果の発表の場を設け、根拠を基に自分の考えを述べることのできる生徒の育成に向けて四技能を中心に言語活動の充実を図る。
○「自力解決」「集団解決」「発表」「振り返り」「まとめ」の流れによる授業スタイルを取り入れ、生徒が主体的に学ぶ授業への改善をさらに進める。
○指導計画や週案に基づき指導の重点を明確にし、教材の工夫、指導法や評価方法の工夫改善をすることで、学力の向上を図る。
○生徒の授業の振り返り評価並びに学校評価の結果を基に、より充実した授業を提供できるよう日頃からの授業改善に努める。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「本時の目標の設定→本時の流れ→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを統一して実施。	○基礎的読解力の6分類等の明確な視点を意識した授業を実践するために校内研修会の充実を図る。 ○INPUT→THINK→OUTPUTを授業の中に設定し、志五中スタイルを全教科で定着させる。	○各教科で単元配列表を作成し、既習内容の把握と教科横断的な学習が総合的な学習の時間との関連性の充実を図る。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学びのエリア研修会を活用し、単元配列表を作成し、既習内容の把握と教科横断的な学習の向上に努める。 ○板橋区授業スタンダードの徹底と読み解く力の6視点を意識した授業展開、個別最適な学習と協働的な学習の一体化を小学校・中学校で実施する。	○教育課程の編成、実施、評価、改善を計画的かつ組織的に進め、教育の質を高める。 ○教科横断的な視点で学校の教育目標達成に必要な教育課程を組織的に配列する。 ○学力調査等の結果とデータに基づいて教育課程を編成、実施した後に評価と改善を行うPDCAサイクルを確立する。 ○地域と連携し、教育に必要な人材、資源を外部に求める。	○ミライシード等を効果的に活用し、生徒一人一人の考えを取り上げるとともに班活動等、協働的な学びのツールとする。 ○ICT機器を用い、生徒の学びを深めるためにICT支援員等を活用し、研修会を行うことで、各教員の指導力向上に努める。